

第3学年西組 道徳科学習指導案

「友達を大切にするために」

学習指導者 好井 佑馬

1 学級（35名）の実態

（1）働きかけを行う自己調整力に関する実態

〔学びを正確に捉える力〕

道徳科の授業に関する質問紙によると、道徳科の授業で新しく学んだことは何かをよく考えている子供は21名であり、道徳科の授業で学んだことを十分に捉えることに課題を感じている子供がいる。また、実際の様々な学習場面において自分の取り組み方を振り返る際には、自分の行動を具体的に捉えられていない子供が多く、自分を客観的に捉えることについては課題があることがうかがえる。

（2）教科に関する学級の実態

「友達を大切にするとはどういうことか」という問いには、「優しくする」、「楽しく遊ぶ」、「困っているときに手伝う」などと答え、34名の子供が友達を大切にしていると答えている。その一方で、「クラスの人に嫌なことを言われることがありますか」という問いには、19名があると答えている。また、友達に正しいと思うことを注意できなかったことがあると答えた11名の子供の内、4名の子供が友達関係が悪くなることへの不安を理由に挙げている。これらのことから、友達と仲よくする大切さについては十分に理解している様子が見られるが、友達に対して正しさを主張することが友達関係に及ぼす負の影響について、また、それぞれの考えを主張し合える関係こそがより信頼を基にした友達関係であるということについては考えが及んでいない子供が多い。

本単元で習得させたい「学びを正確に捉える方法」

友達と共に、心に残ったことを基に今までの自分を見つめる

2 本単元で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

本単元では、子供たちが決めた学級目標を基に、「友達を大切にすること」に焦点を当て、友達を大切にすることを目指す。その過程で、道徳科の学習において、教材の人物と自分を重ねて考えたいことを設定し、友達と話し合いながら考えていく。例えば、自分の思いと友達を思う気持ちとで揺れ動く人物の気持ちについて想像し、「自分がつらいことを伝えた方がいいと思うよ」「でも、友達に嫌われるのではないかという気持ちも分かるよ」「本当の友達なら自分の気持ちを分かってくれるはずだよ」「それに自分が伝えないと、その友達が他の友達にも嫌なことをしてしまうかもしれないから、その友達にとってよくないよね」「その方がお互いにすっきりしそうだね」などと話し合い、友達を喜ばせるだけでなく、友達への信頼を基に、自分が正しいと思ったことは自信をもって行うことのできる関係をつくることの大切さを多面的・多角的に考え、自分との関わりで捉えていくのである。そうして、「今日は言いづらいこともきちんと伝えるということが心に残ったよ。今までも友達がよくないことをしていたら注意することができていたよ」「そうだね。〇〇さんはよく友達に注意できているね。私は相手に嫌な思いをさせたくなくて、あまりできていなかったな」「確かに注意はしていたけど、△△さんみたいに友達が嫌な思いをするかについては考えていなかったな。相手の気持ちを考えた言い方をしたいな」などと、友達と話し合いながら、学習を通して心に残ったことを基に、今までの自分を見つめて学んだことを明確にし、これから自分が取り組みたいことを明らかにしていくのである。そして、それらを実践することを通して、自分の意思を大切にしながらも、友達を尊重して関わっていかうとする姿を目指す。

3 単元構成の工夫

(1)【「魅力的な単元の目標」を子供たちと共有する場の設定】①

単元の導入で、「けんかのない学級に」「みんなが楽しく過ごせるように」などと学級目標に込めた思いを確かめる。そして、学級の中で、「友達を大切にしている」という人が多い一方で、「友達に嫌なことを言われる」と感じている人も多いという質問紙調査の結果を示すことで、友達を大切にしたいという目標に向けて、「友達を大切にするために、どんなことができるだろう」という思いを強くする。そして、単元の終末で一人一人が自分の考えをまとめられるように学習していくことを確かめる。

(2)【「取り組む方法を選択して、自分で学びを進める時間」の設定】⑤

単元を通して学んできたことを基に、友達を大切にしたいことについて、自分の考えをまとめる時間を設定する。まず、これまでの学習のハートのリボンカードや板書写真を見て、自分の考えをまとめる。そして、考えたことを友達と話し合うことを通して、自分の考えと様々な友達の考えを比べ、自分に取り入れたいことを選択しながら、自分がこれから取り組みたいことをまとめていく。

4 単元計画と働きかけ (本時 3/5)

次	学習の流れ	働きかけ
一	<p>①【道德】 どんなことを言うといいかな ～『ぼかぼか言葉』【B親切、思いやり】～</p> <p>自分や学級の実態を把握することで、友達を大切にしたいという目標を設定し、その達成に向けて自分にできることを考えようとする思いを高める。そして、ぼかぼか言葉ととげとげ言葉の違いを考えることを通して、相手を思う言葉によって心が温かくなることを感じる。</p>	<p>【分身タイム】①～④</p> <p>【認知】①②振り返り場面において、自分の学びを明確にするために、ハートのリボンカードに「心に残ったこと」と、それを基に「今までの自分」という視点で振り返り、それを「そうだね」「そうだったの」プレートを用いて友達と話し合い、さらに自分を見つめ直すことよいことを指導する。</p>
	<p>【授業外】 友達にぼかぼか言葉を伝えよう</p> <p>「ぼかぼか言葉週間」を設定し、ぼかぼか言葉を伝え合うとともに、それらを使っているかを振り返る。ぼかぼか言葉を伝え合うと、よりよい友達関係をつくることにつながることを体感する。</p>	
二	<p>②【道德】 正子はどのようにして友達に伝えることにしたのだろう ～『絵はがきと切手』【B友情、信頼】～</p> <p>『絵はがきと切手』を読み、料金不足であることを伝えるか悩み、友達を信頼して伝えることを決めたひろ子の気持ちを想像することを通して、友達を大切にすることについて多面的・多角的に捉え、自分を見つめる。</p>	<p>【想起】③④ハートのリボンカードや「そうだね」「そうだったの」プレートを用いて振り返る場を設定したり、蓄積したハートのリボンカードを見返すことを促したりすることで、自分の学びを明確にする方法を想起できるようにする。</p>
	<p>【授業外】 友達にぼかぼか言葉を伝えよう</p> <p>「ぼかぼか言葉週間」を設定し、ぼかぼか言葉を伝え合うとともに、それらを使っているかを振り返る。ぼかぼか言葉を伝え合うと、よりよい友達関係をつくることにつながることを体感する。</p>	
三	<p>③【道德】 かずやにどんなことを伝えたいかな ～『言い出せなくて』【A善悪の判断、自律、自由と責任】～</p> <p>友達を信じ切れずに自分の言いたいことを言えないかずやに伝える言葉を考え、相手を思い、自分がよいと思うことを進んで行くことの大切さや友達に上手に伝えることの難しさに気付いて、自分を見つめる。</p>	<p>【実感】振り返る視点が明確なハートのリボンカードを使えるようにすることで自分を見つめやすくする。また、「そうだね」「そうだったの」プレートを使って話し合えるようにすることで、それぞれの考えを相互評価しやすくする。友達と共に、心に残ったことを基に、今までの自分を見つめることで、学んだことが明確になったことを称賛し、その方法のよさを感じられるようにする。</p>
	<p>④【学活】 よりよい伝え方を考えよう</p> <p>友達を尊重しながら自分の思いを伝える言い方について、伝える側と伝えられる側を交代しながら役割演技を行うことを通して考え、そのよさを感じて、生活場面で活用していこうとする。</p>	
四	<p>⑤【道德】 友達を大切にするためにどうするか、考えをまとめよう ～【A善悪の判断、自律、自由と責任】【B親切、思いやり】【B友情、信頼】～</p> <p>これまでの学習を基に、友達を大切にするためにどうするかを話し合っまとめて、自分の取り組みたいことを設定する。</p>	

5 本時の学習

ね 友達に自分の思いを言い出せなかったかずやに伝えたいことを考えることを通して、自分が正しいと思ったことを伝えることの大切さや難しさ、友達を信頼することの大切さに気づき、友達に対してよいと判断したことは自信をもって行動しようとする態度を養う。

学習活動と働きかけ	主な子供の意識	
見通し 1 かずやが自分の思いを伝えられなかった気持ちを話し合う。	<p>これまで友達を大切にするためにどうしたらよいかを考えていたよ。</p> <p>かずやは「おかず」と呼ばれると嫌なことを友達に言えずに悩んでいたよ。</p> <p>嫌なあだ名で呼ぶことはいいことではないよね。私も言われたら嫌だよ。</p> <p>それなのに、どうしてかずやは友達に嫌だと伝えられなかったのかな。</p> <p>嫌なことを言ったら友達と仲が悪く二人は楽しんでいて、自分だけ嫌だかなってしまうと思ったのかな。</p> <p>二人は楽しんでいて、自分だけ嫌だから、自信をもてなかったのかな。</p> <p>言い出せない気持ちも分かるけど、このまま言わないと、かずやはずっと苦しいままだよ。もし自分がかずやの友達だったら応援してあげたいな。</p>	
かずやにどんなことを伝えたいかな		
行動 2 かずやに伝えたいことをノートに書き、ペアで話し合う。	<p>自分が嫌な気持ちになっていることは伝えた方がいいよ。だって、嫌なあだ名を付けることはよくないことだからだよ。</p> <p>嫌なことを伝えても、友達はきっと分かってくれると思うよ。だって、大切な友達なんだから、信じないといけないよ。</p> <p>信頼できれば、伝えられるよね。</p> <p>よくないことは教えてあげたいね。</p> <p>よくないことをきちんと伝えられるとすっきりすると思うよ。</p> <p>友達のことを考えると、やっぱり伝えた方がいいね。</p>	
振り返し 3 役割演技を行う。	<p>自分が嫌なことはきちんと伝えた方がいいよ。</p> <p>相手に嫌だと思われたとしても、それは相手のためにもなると思うよ。</p> <p>嫌なことを伝えても、ずっと嫌な気持ちのままだよ。それに、みんなが嫌なあだ名で呼び出すと、もっと嫌な気持ちが強くなっていくかもしれないよ。早めに言った方がいいよ。</p> <p>きちんと伝えることは、自分にとっても相手にとってもいいことなんだね。</p> <p>自分はいいと思ったことを友達に伝えることができているかな。</p>	
振り返し 4 本時の学習を振り返り、自分を見つめる。 【分身タイム】	<p>嫌なことはきちんと伝えるようにしたいな。今までも伝えていたよ。</p> <p>相手のためにも伝える方がいいと思ったよ。今までは我慢していたな。</p> <p>そうだったの？ どうして我慢していたの？</p> <p>そうだね！ いつも友達にいいことを呼びかけることができているね。</p> <p>今までのように、これからも友達に対して自分がいيと思ったことを伝えるようにしていきたいな。</p> <p>どう伝えていいか分からなくて悩んでいたよ。うまく相手に伝えるにはどうしたらいいかを考えていきたいな。</p>	

評価 かずやに伝えたいことについて、友達と話し合うことを通して、多面的・多角的に考え、友達と話し合いながら、本時心に残ったことを基に、今までの自分を見つめている。
【方法：発言、様相、ハートのリボンカード】

6 本時の詳細

～見通し～ **学習活動1**

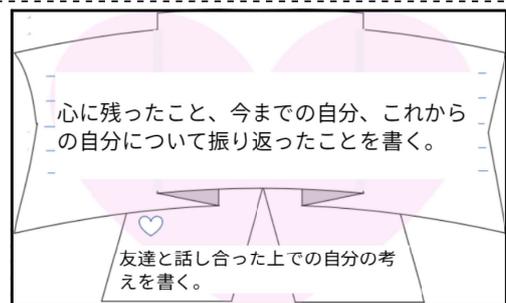
単元を通して、友達を大切にするにはどうしたらよいかを考えてきたことを確認すると共に、本時の学習の流れを確認することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。子供たちは朝の活動の時間に事前に教材文を読んでいるため、範読は行わず、かずやが悩んでいたことを問い、かずやが仲のよい友達に嫌なあだ名を付けられて、なかなか言い出せなかったことを確かめる。その際、嫌なあだ名を付けられることについての考えを問うことで、言われたときの気持ちを想起させながら、相手が嫌なあだ名をつけることはよくないことを確かめる。そして、よくないと思っけていてもかずやが言い出せなかった理由をペアで話し合った後、全体で話し合う場を設定すると、友達との関係について不安に思う気持ちが表出されるだろう。そして、かずやと同じようによくないと思うことを友達に言えなかったことはあるかを問い、かずやが言い出せない気持ちに共感できるようにする。その上で、もし自分がかずやの近くにいたらどうしたいかを問うことで、かずやが自分の思いを言えるように伝えたいという思いを高められるようにする。

～行 動～ **学習活動2・3**

正しいことを言えないかずやに対して、自分が言いたいことを考え、ノートに書く場を設定する。第三者の目線で、主人公に対して伝えたいことを考えられるようにすることで、客観的に自分が大切だと思っていることを表出できると考える。その際、友達と話し合いながら書いてもよいことを伝え、必要に応じて友達と話し合いながら自分の考えをつくれるようにする。また、考えがくれたペアから話し合うことを促す。そして、教師がかずや役、子供たちがかずやに言葉を掛ける役として、役割演技を行う。そうすることで、悩む友達に対して、より本音に近い考えが表出されると考えられる。子供たちからは、「自信をもって伝えるように」というかずやへの言葉掛けが予想される。それに対して、「もしやめてほしいということを書いて、仲が悪くなったらどうするの?」「友達だからこそ相手に嫌われたくないんじゃないの?」などと問い返したり、その問い返しを全体に広げたりすることで、正しいと判断したことを行うことや友達を信頼して伝えることの大切さやその難しさに気付けるようにする。また、自分の具体的な友達の姿を想像させた上で、その友達に伝えることができるかを問うことで、より自分を見つめて考えられるようにする。

～振り返り～ **学習活動4**

学びを明確に捉えられるようにするために、振り返る視点が明確なハートのリボンカードを用いて、友達と話し合いながら振り返る場を設定し、今日の学習で心に残ったことと、それを基に今までの自分について見つめられるようにする【分身タイム】。その際、これからの自分の生き方についての視点でも考えられるようにし、今後の生き方についても見つめられるようにする。子供たちは、分身タイムの活動の方法をこれまでに経験してきているので、自分を見つめる視点を想起しながら、ハートのリボンカードに考えたことを書き、書けたペアから話し合っていくだろう。



【ハートのリボンカード】

話し合う際には、「そうだね」（共感）「そうだったの」（意外）のプレートを示しながら感想や疑問を伝え、相互評価できるようにしている。そうすることで、友達の考えに対して、自分の感想などを端的に伝えるとともに、反応を返された方は、自分が考えたことに対しての友達の評価を知り、自分を見つめ直すことができると考える。そして、話し合ったことを基に、自分の考えを再度、ハートのリボンカードに追記する場を設定する。方法が想起できていない子供のために、テレビモニターに活動の流れを示したり、個別に方法を説明したりする。そして、記述したことを全体で話し合う場を設定し、「そうだね」「そうだったの」プレートを用いて相互評価できるようにし、その様子やその方法によって学びが明らかになったことを称賛したりすることで、友達と共に、心に残ったことを基に今までの自分を見つめる方法のよさを感じられるようにする。